

けいこ事における学習継続性の研究

角替 由弥子

1. はじめに

本研究は、学習行動の特徴を継続性という観点から明らかにしようとする研究の一環として、けいこ事を学習する者の学習行動を取り上げるものである。生涯学習の考え方では、学習は生涯にわたって行われるものととらえられ、人々が成人してから後も学習を何らかの形で続けていくことが望ましいといわれている。ところが、実際に生涯学習における成人の学習行動の実態を明らかにしようとする場合には、継続性の観点から学習行動をとらえることはあまりなされていない⁽¹⁾。成人の様々な学習活動がみられる現状の中でその実態を追究するためには、ある一時期の学習行動を断片的に取り上げるだけではなく、時系列的に取り上げ、行動継続の傾向を明らかにすることが必要と考えられる。

筆者のこれまでの研究では、地域における成人の学習の中で代表的な学習ともいえる公民館での学習を取り上げ、その利用者の学習行動にどのような継続性の傾向があるのかを明らかにした⁽²⁾。しかしながら、公民館利用者の学習継続性の傾向が全てのそれを示しているわけではなく、学習行動の継続性は、学習内容、学習方法・形態、学習者の属性、地域特性等さまざまな条件によって規定されていると考えられる。そこで、本研究では、学習内容のけいこ事を限定して取り上げ、けいこ事を学習する者の行動にどのような継続性の

傾向があるのかを明らかにすることにした。

2. 研究の方法

公民館でけいこ事を学習している者を対象に学習歴に関する調査を行い、確率過程の考え方をを用いて学習の継続性についての分析を行った。

本研究では、継続という時系列の要素を含んだ視点から学習行動の特徴を明らかにしようとするため、時系列に沿った分析の可能な確率過程の考え方をを用いることにした。マルコフ過程⁽³⁾をはじめ「異なる時点における確率変数間の関連のしかたに特別な法則を仮定する」⁽⁴⁾確率過程で学習行動の継続をとらえることにすれば、行動継続の傾向をわかりやすい形で表すことができ、さらには何らかの規則性を見出すことも可能と考えられる。

学習の継続性については様々な点からみることができると思われるが、ここでは、学習内容、学習のために利用する施設（以下利用施設と略）の2点を取り上げ、それぞれの状態が時系列にしたがいどのような確率で推移しているのかを分析し、あわせて同時期に学習している数（以下学習数と略）についても同様の分析を行った。それぞれの状態は、学習内容では他領域の学習の増加・変化なし・減少の3状態、利用施設では公民館のみの利用・他の施設との併用・他の施設のみの利用の3状態、学習数では増加・変化なし・減少

の3状態とし(図1～図3)、各時点の次時点への推移の確率(図1～図3のa～i)を求め、けいこ事における学習継続の傾向を明らかにした。さらに、けいこ事の違いによる学習継続の傾向の差異を明らかにするために、書道や華道などいくつかの特定のけいこ事毎に学習継続の傾向の特徴を分析した。

図1 学習内容の推移

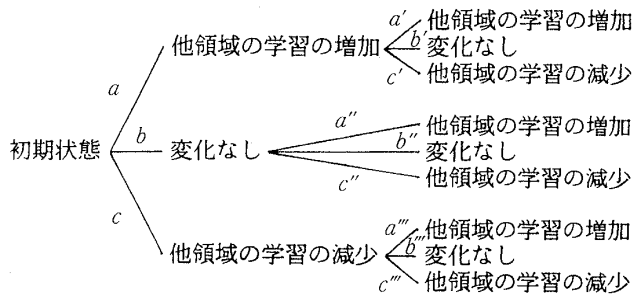


図2 利用施設の推移

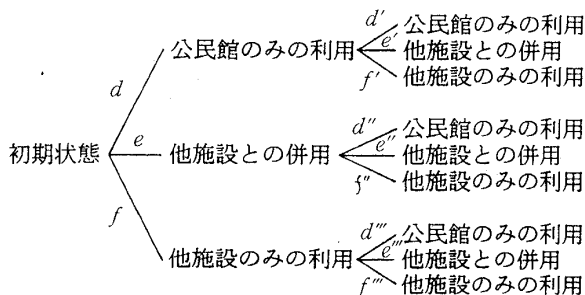
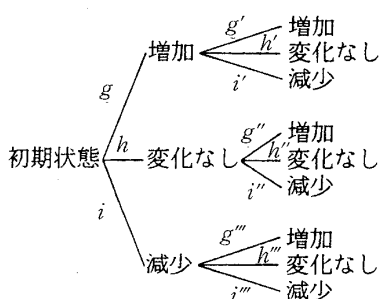


図3 学習数の推移



なお、一般に、けいこ事⁽⁵⁾とは「けいこして身につける技芸」であり、茶道、華道、邦楽など日本古来の芸能を始め、今日ではピアノ、

バイオリン、バレエなどまで含めてけいこ事といわれている。本研究でもこのような一般的なけいこ事のとらえ方を考慮して「芸術・芸能・趣味に関する領域の学習を中心として何か特別な技術を繰り返し練習して身につけること」をけいこ事としてとらえることにした。

分析で用いたデータは平成5年8月下旬から9月上旬にかけて、静岡県下の11公民館で茶道、華道、大正琴などのけいこ事を学んでいる者430名を対象に行った学習歴に関する調査によって得られたものである。有効回収率は66.7% (287票) であった⁽⁶⁾。

3. けいこ事学習者の学習継続の傾向

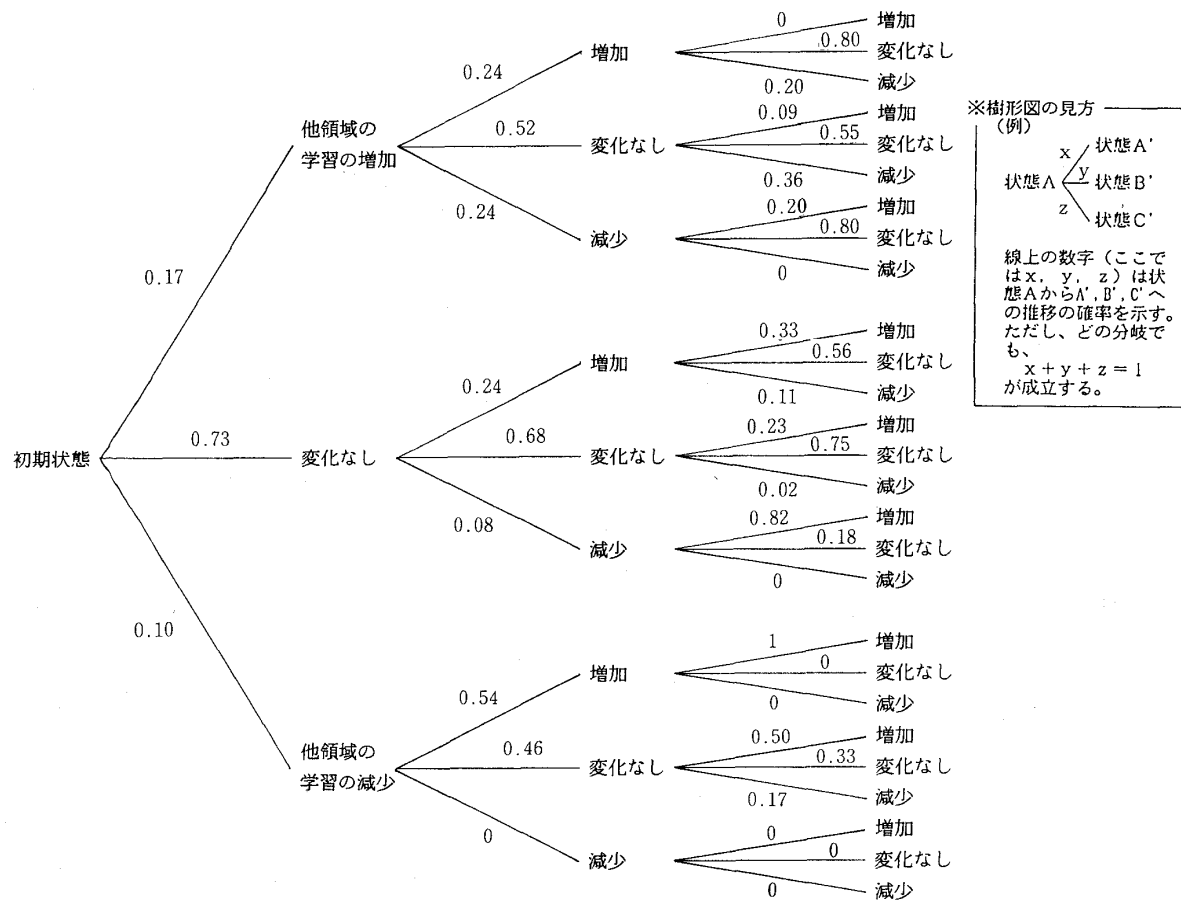
(1) 学習内容からみた傾向

はじめに、けいこ事を学習する者の学習継続の傾向を学習内容の点から分析することにして。具体的には、学習者はけいこ事以外にどのような領域の内容を学ぶのか、そのような場合には他領域の学習も同時に行う傾向はどの程度なのかをみることにした。

図4は現在けいこ事を学ぶ者について、9年前から学習内容がどのように推移しているかを示したものである。

樹形図下には9年前、6年前、3年前、現在の各時点で学習者がどのような内容を学習しているのかを示した。この学習内容の内訳は、その時点でけいこ事だけを学習しているのか、けいこ事以外の学習も並行して行っているのか、行っているとすればどのような領域の学習をしているのかという状況を明示するために「けいこ事の学習のみ」「他の学習との併用」「他の学習のみ」の3分類とした。さらに後者2分類では「他の学習」を6つの学習内容領域に分け、併用先あるいは他の学習内容を示した。内訳をみると、現在の時点で近づくにつれて他の学習との併用の比率は高くなるものの、すべての時点でけいこ事の学習のみの比率が最も高く常に5割前後となっている。他の学習を併用する場合には、教養

図 4 学習内容の推移



< 9 年前 >

学習者数 125名

学習内容別内訳

| | |
|-----------|-------|
| けいこ事の学習のみ | 53.6% |
| 他の学習との併用 | 26.4% |
| 併用先 | |
| 職業 | 3.0% |
| 家庭 | 24.2% |
| 教養 | 33.3% |
| 芸術 | 27.3% |
| 体育 | 30.3% |
| その他 | 18.2% |
| (複数回答) | |
| 他の学習のみ | 20.0% |
| 内容 | |
| 職業 | 4.0% |
| 家庭 | 32.0% |
| 教養 | 24.0% |
| 芸術 | 24.0% |
| 体育 | 32.0% |
| その他 | 12.0% |
| (複数回答) | |

< 6 年前 >

学習者数 183名

学習内容別内訳

| | |
|-----------|-------|
| けいこ事の学習のみ | 49.2% |
| 他の学習との併用 | 30.6% |
| 併用先 | |
| 職業 | 1.8% |
| 家庭 | 26.8% |
| 教養 | 33.9% |
| 芸術 | 17.9% |
| 体育 | 32.1% |
| その他 | 19.6% |
| (複数回答) | |
| 他の学習のみ | 16.9% |
| 内容 | |
| 職業 | 3.2% |
| 家庭 | 25.8% |
| 教養 | 22.6% |
| 芸術 | 19.4% |
| 体育 | 38.7% |
| その他 | 9.7% |
| (複数回答) | |
| 中断 | 3.3% |

< 3 年前 >

学習者数 231名

学習内容別内訳

| | |
|-----------|-------|
| けいこ事の学習のみ | 49.4% |
| 他の学習との併用 | 36.8% |
| 併用先 | |
| 職業 | 2.4% |
| 家庭 | 24.7% |
| 教養 | 35.3% |
| 芸術 | 17.6% |
| 体育 | 37.6% |
| その他 | 20.0% |
| (複数回答) | |
| 他の学習のみ | 9.5% |
| 内容 | |
| 職業 | 13.6% |
| 家庭 | 13.6% |
| 教養 | 22.7% |
| 芸術 | 27.3% |
| 体育 | 31.8% |
| その他 | 31.8% |
| (複数回答) | |
| 中断 | 4.3% |

< 現在 >

学習者数 287名

学習内容別内訳

| | |
|-----------|-------|
| けいこ事の学習のみ | 53.7% |
| 他の学習との併用 | 46.3% |
| 併用先 | |
| 職業 | 8.3% |
| 家庭 | 23.3% |
| 教養 | 33.8% |
| 芸術 | 17.3% |
| 体育 | 44.4% |
| その他 | 21.8% |
| (複数回答) | |
| 他の学習のみ | 0% |

注 1) 併用先、内容の項目は以下の学習内容 6 領域の略である。

- 職業 —— 職業に関する学習
- 家庭 —— 家庭・日常生活に関する学習 (洋裁などのけいこ事は除く)
- 教養 —— 教養に関する学習
- 芸術 —— 芸術・芸能・趣味に関する学習 (茶道などのけいこ事は除く)
- 体育 —— 体育・スポーツに関する学習
- その他 —— その他の学習

注 2) 併用先の複数回答は併用している学習者数に対する比率を示す。

注 3) 内容の複数回答は他の学習のみしている者の数に対する比率を示す。

に関する学習、体育・スポーツに関する学習の比率が高くなっている。

樹形図では、9年前からの各時点における各状態の次時点への推移の確率を示した。この推移の確率をみると、ほとんどの分岐で変化なしへむかう確率が他の状態にむかう確率より高くなっており、0.5以上の値を示している。これは、けいこ事の学習者は学習内容をあまり変えない傾向にあることを意味していると考えられる。

このような傾向は、学習者を6年以上前から学習している者に限定し、各時点の状態を「けいこ事の学習のみ」「他の学習との併用」「他の学習のみ」とした場合により明確にみられた。図5はその分析結果を示したものである。樹形図に示した推移の確率をみると、けいこ事の学習のみにむかう確率が0.8以上となる分岐が3か所あり、これらはいずれもけいこ事の学習のみの状態からさらにまたけいこ事の学習のみの状態にむかう分岐である。これは、あるけいこ事を始めるとその学習を続けたり、けいこ事を始めてそれを続けるようになると、そのけいこ事は終えたとしても、また次にはけいこ事に属する学習をするといった傾向を示していると考えられる。また、樹形図中段では他の学習との併用にむかう確率が6年前から3年前、3年前から現在のどちらも0.8以上と高くなっており、これはけいこ事と他の学習を併用する人はその状態を続けていく傾向を示すものととらえられる。これらのことから、けいこ事を学習する者は学習内容をあまり変えない傾向にあることが推測できるだろう。

(2) 学習数からみた傾向

次に、学習内容を領域別ではなくさらに細かい学習項目のレベルでみた場合の学習継続の傾向をみることにしよう。学習項目のレベルでの継続の傾向のとりえ方は上記と同様の分析も含め様々考えられるが、ここでは、同時期に並行して学習している学習項目の数（以下学習数と略）に注目して学習継続の傾

向をみることにした。なお、ここでいう学習項目とは、茶道、華道、大正琴など学習者が直接あげた具体的な学習内容のことである。

図6は図4や図5とほぼ同じような形式で学習数の推移を示したものである。樹形図の下各時点における学習者の学習数別内訳をみると、学習数が1項目の比率は9年前には4割以上であったのが、6年前、3年前と漸次減少し、現在では約25パーセントとなっている。一方で学習数が2項目あるいは3項目の比率はどの時点においても合計すると4割程度になり、特に現在では5割に達するほどとなっている。

このような状況を上の樹形図で推移の確率からみると、多くの分岐で変化なしにむかう確率が増加にむかう確率に等しいかあるいはそれより高くなっている。各分岐の変化なしにむかう確率をみると、0.31から0.61までと他の状態にむかう推移の確率よりも最高値と最低値の差が少なく、学習数が変化しない傾向は推移の確率が比較的一定している傾向といえるだろう。以上のことから、学習数からみたけいこ事学習者の学習継続は、1項目から多くても4項目程度の学習数の範囲で一定している傾向にあると考えられる。

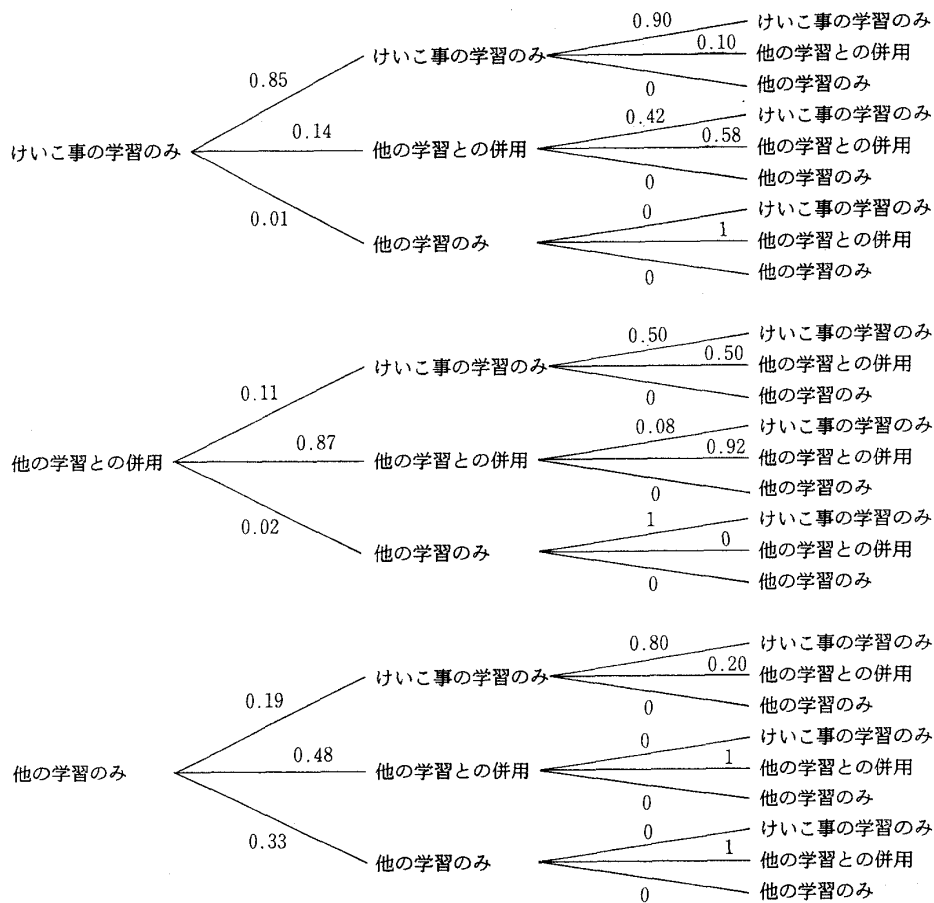
(3) 利用施設からみた傾向

さらに、このようなけいこ事を中心とした学習はどのような施設で行われるのかをみてみよう。今回の調査対象者は公民館でけいこ事を学習している者であるので、公民館と公民館以外の施設をどのように利用しているのかという点から分析を行った。

図7は6年以上前から学習している者170名の利用施設の推移の傾向を、6年前、3年前、現在の3時点を取り上げてみたものである。

樹形図下の利用施設別の内訳をみると、現在では公民館のみの利用と他施設との併用の比率はほぼ同じになっている。さらに他施設を併用する場合には、個人教授所の併用の比率がどの時点でも高くなっている。これは、

図 5 6 年以上前から学習している者の学習内容の推移



< 6 年前 >
学習者数 170名
学習内容別内訳 (初期分布)

| | |
|-----------|-------|
| けいこ事の学習のみ | 51.8% |
| 他の学習との併用 | 32.3% |
| 併用先 | |
| 職業 | 1.8% |
| 家庭 | 23.6% |
| 教養 | 32.7% |
| 芸術 | 16.4% |
| 体育 | 32.7% |
| その他 | 20.0% |
| (複数回答) | |
| 他の学習のみ | 15.9% |
| 内容 | |
| 職業 | 0% |
| 家庭 | 25.9% |
| 教養 | 25.9% |
| 芸術 | 22.2% |
| 体育 | 37.0% |
| その他 | 11.1% |
| (複数回答) | |

< 3 年前 >
学習者数 170名
学習内容別内訳

| | |
|-----------|-------|
| けいこ事の学習のみ | 50.6% |
| 他の学習との併用 | 42.9% |
| 併用先 | |
| 職業 | 2.7% |
| 家庭 | 26.0% |
| 教養 | 35.6% |
| 芸術 | 16.4% |
| 体育 | 34.2% |
| その他 | 23.3% |
| (複数回答) | |
| 他の学習のみ | 6.5% |
| 内容 | |
| 職業 | 9.0% |
| 家庭 | 27.3% |
| 教養 | 36.4% |
| 芸術 | 45.5% |
| 体育 | 36.4% |
| その他 | 36.4% |
| (複数回答) | |

< 現在 >
学習者数 170名
学習内容別内訳

| | |
|-----------|-------|
| けいこ事の学習のみ | 49.4% |
| 他の学習との併用 | 50.6% |
| 併用先 | |
| 職業 | 4.7% |
| 家庭 | 27.9% |
| 教養 | 33.7% |
| 芸術 | 23.3% |
| 体育 | 41.9% |
| その他 | 29.1% |
| (複数回答) | |
| 他の学習のみ | 0% |

注 1) 各時点の状態は以下に示すとおりである。

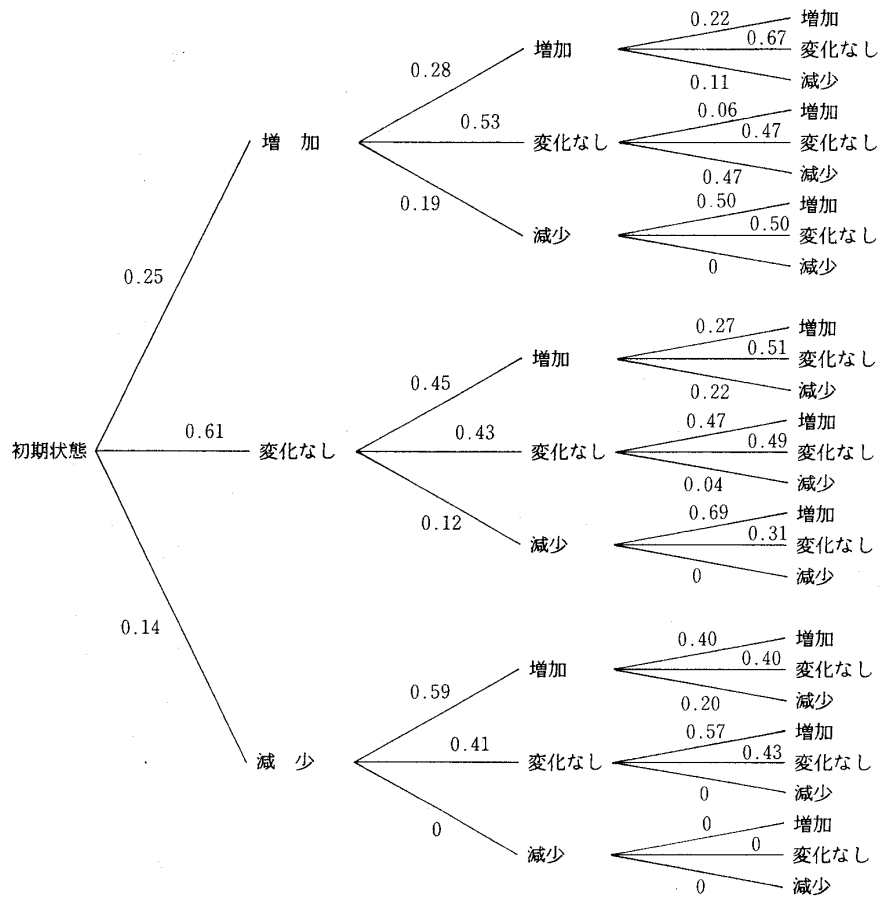
- けいこ事の学習のみ — けいこ事のみを学習している状態のこと
 他の学習との併用 — けいこ事だけでなく他の学習も同時にしている状態のこと
 他の学習のみ — けいこ事の学習はせず、他の学習のみしている状態のこと

注 2) 併用先、内容の項目は以下の学習内容 6 領域の略である。

- 職業 — 職業に関する学習
 家庭 — 家庭・日常生活に関する学習 (洋裁などのけいこ事は除く)
 教養 — 教養に関する学習
 芸術 — 芸術・芸能・趣味に関する学習 (茶道などのけいこ事は除く)
 体育 — 体育・スポーツに関する学習
 その他 — その他の学習

注 3) 併用先の複数回答は併用している学習者数に対する比率を示す。

図6 学習数の推移



< 9 年前 >

学習者数 125名

学習数別内訳

| | |
|------|-------|
| 1項目 | 44.8% |
| 2項目 | 25.6% |
| 3項目 | 12.8% |
| 4項目 | 6.4% |
| 5項目 | 4.8% |
| 6項目 | 1.6% |
| 7項目 | 0.8% |
| 8項目 | 1.6% |
| 9項目 | 0.8% |
| 10項目 | 0% |
| 11項目 | 0% |
| 12項目 | 0.8% |

< 6 年前 >

学習者数 183名

学習数別内訳

| | |
|------|-------|
| 中 断 | 3.3% |
| 1項目 | 43.2% |
| 2項目 | 21.9% |
| 3項目 | 14.8% |
| 4項目 | 7.7% |
| 5項目 | 1.6% |
| 6項目 | 3.3% |
| 7項目 | 2.2% |
| 8項目 | 1.1% |
| 9項目 | 0.5% |
| 10項目 | 0% |
| 11項目 | 0.5% |
| 12項目 | 0% |

< 3 年前 >

学習者数 231名

学習数別内訳

| | |
|------|-------|
| 中 断 | 4.3% |
| 1項目 | 32.1% |
| 2項目 | 22.6% |
| 3項目 | 18.2% |
| 4項目 | 12.1% |
| 5項目 | 3.0% |
| 6項目 | 3.0% |
| 7項目 | 2.2% |
| 8項目 | 1.7% |
| 9項目 | 0.4% |
| 10項目 | 0% |
| 11項目 | 0% |
| 12項目 | 0.4% |

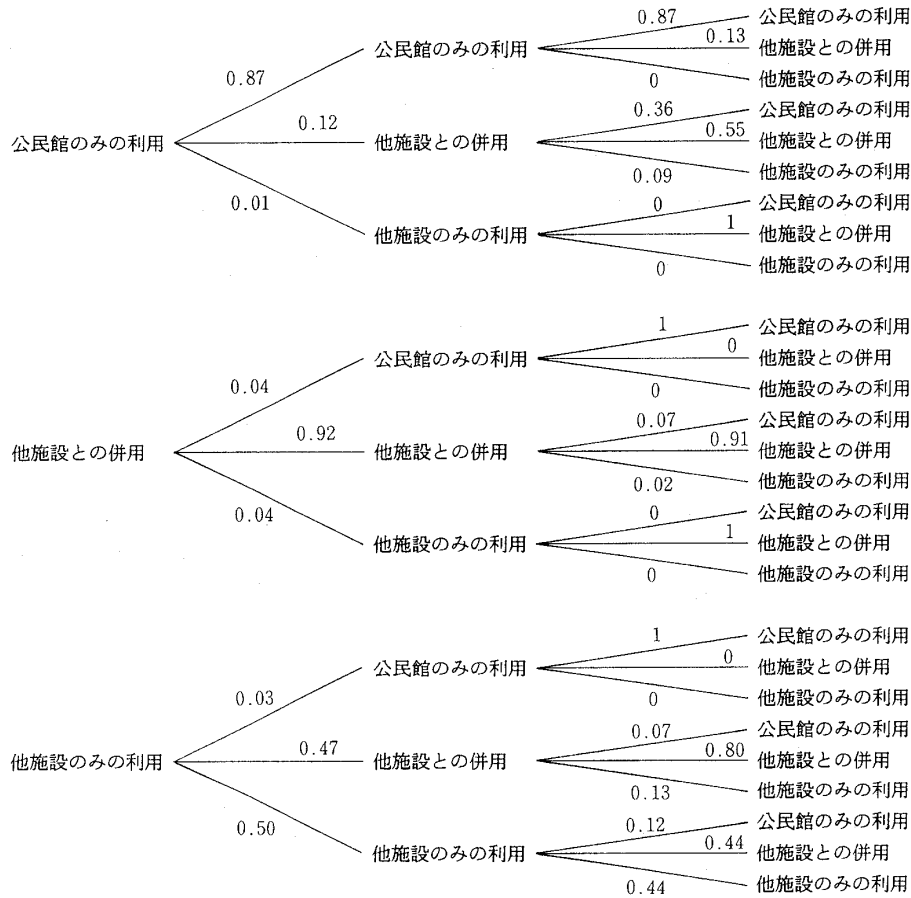
< 現在 >

学習者数 287名

学習数別内訳

| | |
|------|-------|
| 1項目 | 24.5% |
| 2項目 | 29.0% |
| 3項目 | 20.7% |
| 4項目 | 11.8% |
| 5項目 | 5.9% |
| 6項目 | 3.1% |
| 7項目 | 2.4% |
| 8項目 | 1.4% |
| 9項目 | 0.3% |
| 10項目 | 0.3% |
| 11項目 | 0.3% |
| 12項目 | 0.3% |

図 7 利用施設の推移



< 6 年前 >

学習者数 170名

利用施設別内訳 (初期分布)

| | |
|----------|-------|
| 公民館のみの利用 | 53.0% |
| 他施設との併用 | 28.2% |
| 併用先 | |
| 民間の教育施設 | 33.3% |
| 個人教授所 | 56.2% |
| 学校 | 4.2% |
| その他 | 45.8% |
| (複数回答) | |
| 他施設のみ利用 | 18.8% |

< 3 年前 >

学習者数 170名

利用施設別内訳

| | |
|----------|-------|
| 公民館のみの利用 | 47.6% |
| 他施設との併用 | 41.2% |
| 併用先 | |
| 民間の教育施設 | 35.7% |
| 個人教授所 | 45.7% |
| 学校 | 8.6% |
| その他 | 42.9% |
| (複数回答) | |
| 他施設のみ利用 | 11.2% |

< 現在 >

学習者数 170名

利用施設別内訳

| | |
|----------|-------|
| 公民館のみの利用 | 47.6% |
| 他施設との併用 | 45.9% |
| 併用先 | |
| 民間の教育施設 | 34.6% |
| 個人教授所 | 44.9% |
| 学校 | 3.8% |
| その他 | 50.0% |
| (複数回答) | |
| 他施設のみ利用 | 6.5% |

注 1) 各時点の状態は以下に示すとおりである。

公民館のみの利用 — 公民館のみを利用している状態のこと

他施設との併用 — 公民館だけでなく他の施設も同時に利用している状態のこと

他施設のみ利用 — 公民館は利用せず、他の施設のみを利用している状態のこと

注 2) 併用先の複数回答は併用している学習者数に対する比率を示す。

けいこ事の学習者を対象とした調査の必然的な結果ともいえるだろう。

樹形図で利用施設の推移の確率をみると、公民館のみの利用に限ってみれば（樹形図上段）、公民館のみの利用にむかう確率がつねに0.85以上と高く、他施設との併用に限ってみれば（樹形図中段）、他施設との併用にむかう確率がつねに0.9以上と高くなっている。これらのことは、公民館だけを利用する人は常に公民館だけを利用し、他施設を併用している人は常に併用するというように、施設の利用方法はあまり変わらないことを示している。ただし、初期状態にかかわらず、他施設との併用へむかう確率は0.4～0.8と比較的高い確率になっている分岐もある。これは、けいこ事が公民館以外の施設でも学習しやすい状況であることを示していると考えられる。

4. 特定のけいこ事における学習継続の傾向

3. ではけいこ事を学習する者全体の学習継続の傾向をみてきたが、けいこ事によって学習継続の傾向に何か違いがみられたり、特徴があったりするのだろうか。前述の全体的な分析では、学習内容をあまり変えず、学習数も比較的一定している傾向があったが、これは特定のけいこ事を長く続ける学習者が多いことを反映したものと予測される。そこで、どのようなけいこ事で長く学習する者が多いのか、またその学習継続にはどのような特徴があるのかをみることにした。

図8～図12は、書道、華道、茶道、大正琴、コーラスの各けいこ事を3年以上前に学習していた者について、その継続の推移を示したものである。どの図においても、上段には9年前に学習していた者が現在に至るまで学習を続けたかどうかの推移を、中段には6年前に学習していた者の学習継続の推移を、下段には3年前に学習していた者の学習継続の推移を3年おきに表した。どの程度の期間学習を続けているのかをみるために各時点の状態は「学習している」と「学習していない」の

2状態とした。

図8～図10に示した書道、華道、茶道といった「～道」とつくけいこ事においては、学習を継続する者が多く、「学習している」から「学習している」にむかう学習継続の確率が常に高い一方で、初期状態から「学習していない」にむかう確率が0.2から0.3になる分岐もあり、3年以内で学習をやめてしまう者が一定の割合で存在するという傾向がみられた。具体的にみれば、華道では、9年前から華道を学ぶ50～60歳代の女において、学習者の約1割前後（確率でいえば $0.12 \pm 0.04 \sim 0.05$ ）が学習を停止するという一定の傾向がみられた。また、茶道では、一度学習を止めても、再び学習を開始する者が2名いた。このように以前学習した内容を再び学習し始める傾向はけいこ事では多いのではないかと予想していたが、今回の調査結果ではこの茶道の2名のみであった。

図9、図10に示した大正琴やコーラスのような音楽系のけいこ事では、3年以上前に学習している者の殆どの者が学習を継続していることが明らかとなった。そのため、「学習している」状態からの分岐の多くは「学習している」にむかう確率が1となっている。このような傾向は今回の調査に限っての傾向と考えられる。ただし、大正琴もコーラスも合奏あるいは合唱といった集団学習の形態をとるという共通点を有している。したがって、この分析結果は学習方法・形態が学習の継続と何らかの関係にあることを示していると思われる。

5. おわりに

本研究では、学習内容をけいこ事に限定し、その継続性の傾向を確率過程の考え方をを用いて明らかにした。今回の分析では、けいこ事の学習が一定の状態で継続されやすいものであることを明らかにすることができたものの、マルコフ性等の確率的な規則性を見い出すにはいたらなかった。さらに分析を重ねて、そ

図8 書道の学習の推移

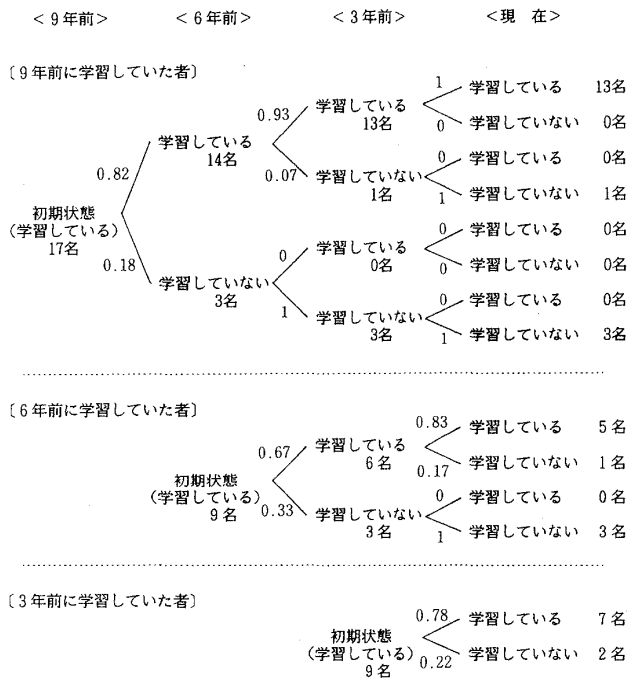


図9 華道の学習の推移

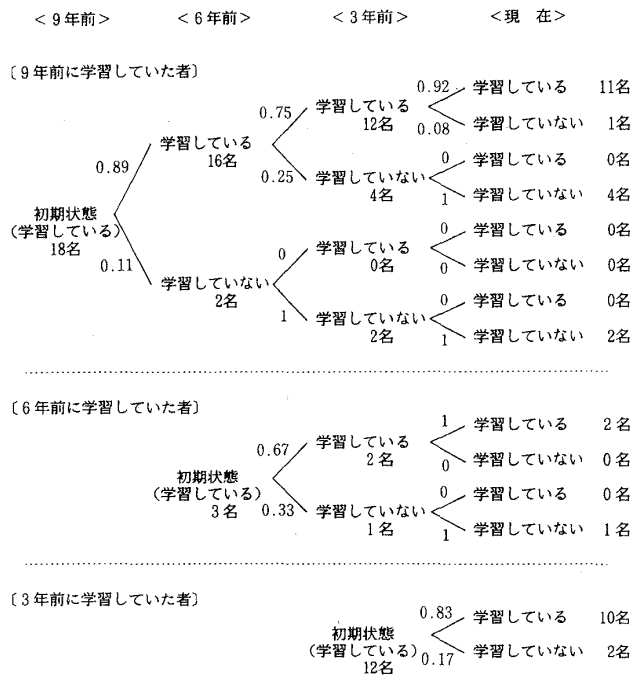


図10 茶道の学習の推移

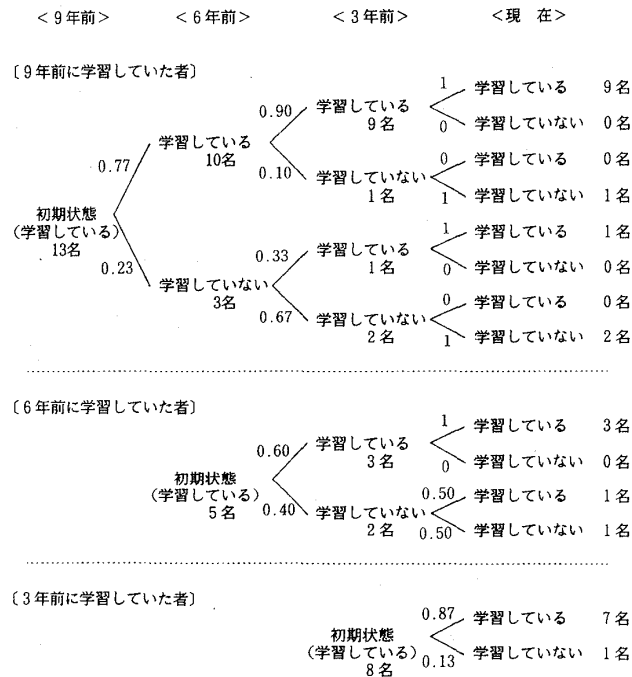


図11 大正琴の学習の推移

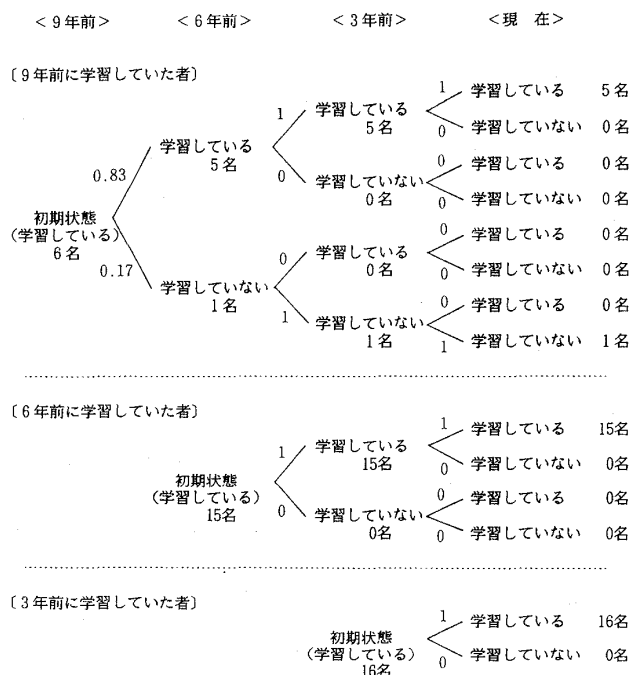
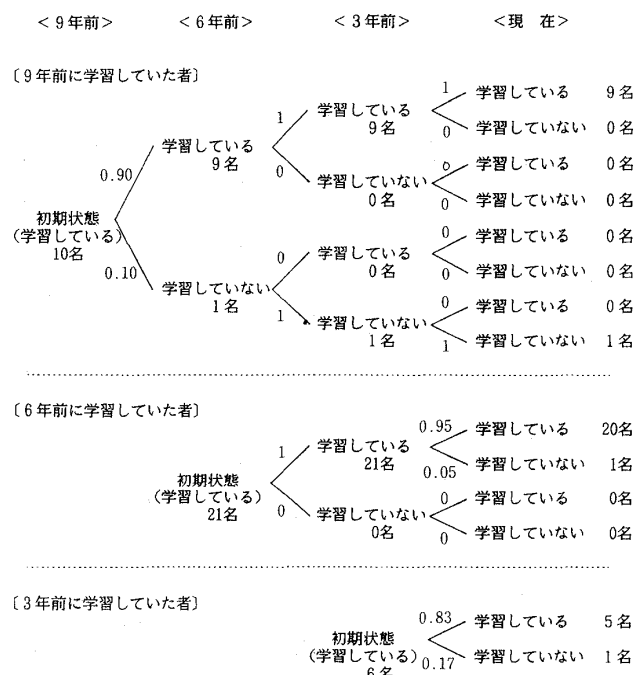


図12 コーラスの学習の推移



のような規則性を見い出していくことが必要であろう。また、本研究で明らかになった学習継続の傾向が、例えば体育・スポーツに関する学習など他の学習内容の領域でも共通していることかどうか等を考察し、学習内容からみた学習行動の継続性を検討していくことが今後の課題である。

〔註〕

- (1) これまでの研究で学習行動・学習関心を時系列的にとらえたものとしては、藤岡英雄『学習関心の階層モデルー学習ニーズ把握の新しい枠組みとその有効性について』（『日本生涯教育学会年報』第7号、昭和61年、所収）、NHK放送文化研究所『日本人の学習ー成人の学習ニーズをさぐる』（NHK学習関心調査（'82、'85、'88）報告書、第一法規、平成2年）があげられる。
- (2) 詳細は、拙稿「公民館利用者の学習継続性に関する研究ー静岡県清水市の場合ー」（東海女子大学紀要第13号、平成6年、所収）に述べている。
- (3) マルコフ過程とは、時点nの状態から次の時点n+1の状態にむかう確率（推移確率）が常に一定で、かつ時点n+1の状態が時点nの状態のみ

によって定まり、時点nより前の歴史には無関係であるという特別な性質を有するような確率過程であり、以上のような性質から「初期分布と推移確率を与えればきまるような確率過程」（福島正俊・石井一成『自然現象と確率過程』（数学セミナー増刊 入門現代の数学10）、日本評論社、昭和55年、24頁）とされる。

- (4) 森村英典・高橋幸雄『マルコフ解析』（ORライブラリー18）、日科技連出版社、昭和54年、2頁
- (5) けいこ事の定義ははっきりしておらず、様々ととらえ方がありである。一般的には本論で述べたとおりであるが、一方で「現在でこそピアノや絵や洋裁の勉強も稽古事の範疇に入れてしまっているが、やはり日本の伝統的な技芸の習得というのがこの言葉の持っている本来の意味であろう」（日本風俗史学会編『日本風俗史事典』、弘文堂、昭和54年、190頁「稽古事」の項）というようにとらえ方もある。
- (6) 調査対象となった公民館は、静岡県東部・伊豆地方3館、中部地方5館、西部地方3館の計11館で静岡県のほぼ全域に分布している。なお、回答者のプロフィールは本稿末の付表1から付表6に示すとおりである。

けいこ事における学習継続性の研究

付表1 公民館別のサンプル数および回収状況と回答者の学習内容

| No. | 公民館名 | サンプル数 | 有効回収数 | 有効回収率(%) | 回答者の具体的な学習内容 |
|-----|------------|-------|-------|----------|--------------|
| 1 | 伊豆長岡町中央公民館 | 50 | 20 | 40.0 | 茶道、舞踊など |
| 2 | 今泉公民館(富士市) | 50 | 44 | 88.0 | 茶道、洋裁、生け花など |
| 3 | 有度公民館(清水市) | 50 | 41 | 82.0 | 生け花、書道、大正琴など |
| 4 | 船越公民館(清水市) | 50 | 40 | 80.0 | 茶道、華道など |
| 5 | 静岡市女性会館 | 30 | 11 | 36.7 | 茶道、華道など |
| 6 | 富士川町公民館 | 50 | 48 | 96.0 | 大正琴、詩吟、華道など |
| 7 | 三ヶ日町中央公民館 | 30 | 16 | 53.3 | 洋裁、絵画など |
| 8 | 新居町公民館 | 30 | 24 | 80.0 | コーラスなど |
| 9 | 大須賀町公民館 | 30 | 24 | 80.0 | 書道、コーラスなど |
| 10 | 韭山町公民館 | 30 | 0 | 0 | |
| 11 | 函南町公民館 | 30 | 19 | 63.3 | 書道、茶道、華道など |
| 計 | | 430 | 287 | 66.7 | |

注) 各公民館のNo. は地図上の公民館所在地に付した番号を示す。

付表2 性別 (%)

| 男 | 女 | 無記入 | 計 |
|-----|------|-----|-------|
| 6.6 | 91.7 | 1.7 | 100.0 |

付表3 年齢別 (%)

| 20～24歳 | 25～29歳 | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 | 45～49歳 | 50～54歳 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2.8 | 7.3 | 2.1 | 4.2 | 8.0 | 6.6 | 12.9 |

| 55～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70～74歳 | 75～79歳 | 80歳以上 | 無記入 | 計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-----|-------|
| 8.7 | 16.4 | 15.0 | 8.4 | 2.8 | 2.4 | 2.4 | 100.0 |

付表4 最終学歴別 (%)

| 小学校 | 中学校 ¹⁾ | 高等 ²⁾ 学校 | 高等専門学校 | 短期大学 | 大学 ³⁾ | 各種学校 | 専修 ⁴⁾ 学校 | その他 | 無記入 | 計 |
|-----|-------------------|---------------------|--------|------|------------------|------|---------------------|-----|-----|-------|
| 2.1 | 10.8 | 52.6 | 0.7 | 10.5 | 9.8 | 1.7 | 5.6 | 0.3 | 5.9 | 100.0 |

注1) 旧制高等小学校を含む。
 注2) 旧制中学校、旧制高等女学校、旧制実業学校を含む。
 注3) 旧制高等学校、旧制専門学校を含む。
 注4) 専門学校を含む。

付表5 学習経験年数別 (%)

| 0～2年 | 3～5年 | 6～8年 | 9～14年 | 15年以上 | 計 |
|------|------|------|-------|-------|-------|
| 19.5 | 16.7 | 19.9 | 15.3 | 28.6 | 100.0 |

付表6 免状・資格の有無別 (%)

| 免状有 | 免状無 | 計 |
|------|------|-------|
| 28.9 | 71.1 | 100.0 |